

第5章 課題別計画における主なスポーツ推進施策

1 第2次健康増進計画・食育推進計画

(計画期間：平成25年度～29年度・担当課：健康課)

<現状>

- げんき度健診の実施
体力測定を行うにより、自分の体力を知る再確認となることで、運動への関心を高め、運動習慣を取り入れるきっかけとなるよう支援している。
- ウォーキングの普及・啓発
市内のウォーキングマップの配布などにより、情報提供を行っている。

<今後の方向性>

- 健康相談や健康教育などを通じて、健康づくりにおける運動効果の普及・啓発を進める。
- 運動メニューの紹介や市内のウォーキングマップの配布による情報提供を行い、誰でも気軽に自分にあった運動習慣が身につくきっかけづくりを進めていく。

2 第6次芦屋すこやか長寿プラン21

(計画期間：平成24年度～26年度・担当課：高齢福祉課・介護保険課)

<現状>

- 高齢者スポーツ大会（運動会）の実施
毎年、秋に芦屋市の高齢者を対象にスポーツ大会を実施している。
芦屋市老人クラブ連合会と芦屋市が共催、大会の競技種目は、フォークダンスや紅白玉入れ、綱引き、パン食いゲーム、〇×クイズなど
ボランティアとして、芦屋大学の学生、芦屋学園高等学校、兵庫県立国際高等学校の生徒さんの協力を得ている。
- 健康づくりや交流の場としての公園健康遊具の設置
芦屋市公園緑地課と協力して、市内33箇所の公園に健康遊具を設置し、高齢者の健康増進を図っている。（健康遊具マップも作成）
- 高齢者のための介護予防拠点としての保健福祉センター開設
（平成22年7月にオープン）
高齢者が健康づくりのために自由に利用できるよう開放し、介護予防センターでは、マシントレーニングができる環境の整備と、グループエクササイズプログラムを提供要支援や要介護の状態になるおそれのある人を対象とした介護予防教室「すこやか教室」、また、音楽リズム教室、水浴訓練室（プール）を活用した介護予防教室も実施している。

- 高齢者のための体操教室の実施
市内の65歳以上の方を対象に老人福祉会館や高齢者生活支援センター等市内各所で体操教室（さわやか教室）を実施している。

＜今後の方向性＞

- 高齢者が楽しみながらスポーツに親しんでいただく機会として芦屋市老人クラブ連合会と連携し高齢者スポーツ大会を継続実施するとともに日常の中で気軽に継続して運動に取り組めるよう自主運動グループを支援する仕組みや、健康遊具の利用促進等介護予防につながる取り組みを強化していきたい。

3 障害者（児）福祉計画 第5次中期計画

（計画期間：平成21年度～26年度・担当課：障害福祉課）

＜現状＞

- ふれあい市民運動会の実施
毎年秋に1回ふれあい市民運動会を実施し、内容については、各障がい者団体・社会福祉協議会等関係機関が実行委員となり、多くの市民が参加できる開催方法や競技内容等意見を出し合い決定している。広報への掲載やチラシの配布を行い、多くの方が参加できるよう努めている。
- 各種スポーツ大会等の周知及び参加支援の推進
各種スポーツ大会等の開催案内を受け、窓口へのチラシの設置やポスターの掲示を行い、大会の周知を図っている。また、兵庫県のスポーツ大会については、大会に職員が同行し、参加支援を行っている。
- 障がいのある人の生涯学習活動の振興（社会福祉協議会）
障がい者スポーツ交流広場の実施している。
ふれあいボウリング大会開催の協力をしている。
風船バレーボールの活動の支援をしている。
- 障がいのある人のスポーツへの参加（スポーツ推進課との共催）
障がい者スポーツ推進の核となる指導者を養成、育成するため、平成21年6月芦屋市障がい者スポーツ指導者協議会（主に公認指導員対象）を設立し、芦屋市社会福祉協議会と共催して「障がい者スポーツ交流広場（スポーツ教室）」を定期的（月1回）に開催している。

＜今後の方向性＞

- 障がいのある人の「生きがいづくり」や障がいのある人への理解を促進するためにも、スポーツ・レクリエーション等は重要な意義を持っており、各取り組みについて継続・充実を図りながら、障がいのある人が地域住民の一員としてスポーツ・レクリエーション等に参加できるよう機会づくりを支援していく。

4 教育振興基本計画

(計画期間：平成23年度～27年度・担当課：学校教育課)

<現状>

- 体力・運動能力調査の実施
全小学校5，6年生と中学校生を対象に，新体力テスト調査を継続して実施し，その調査結果を検証，分析した上で，今後の指導改善に活かしている。
- 小学校体育活動充実支援事業による学校の体育活動への支援
文部科学省の委託事業「地域スポーツとトップスポーツの好循環推進プロジェクト」を受けたスポーツ NPO との連携により，平成24年度から小学校8校に指導補助員を配置し，学校の体育活動の充実を図っている。(各校年間 145 時間)
- 児童生徒の体力向上に向けた教職員の研修の充実
打出教育文化センターの委嘱研究グループとして「体力向上部会」を組織し，幼児児童・生徒の運動意欲や能力を高める指導のあり方について研修や研究協議を行い，その成果を学校園に発信している。
- 幼小連携による子どもの体力向上の研究
幼小期の体験や運動遊びが，小・中学生の体力向上の基盤になると捉え，「小学校体育研究会」を中心に，学期に2回程度，小学校と幼稚園の教員の交流会を実施し，子どもの体力向上や運動遊び等について研究協議や情報交換を行っている。
- 総合遊具の整備
老朽化した遊具に替えて，幼稚園（平成24年度），小学校（平成25年度～平成26年度）に総合遊具を新たに設置し，子どもの体力向上のための環境の整備を行っている。

<今後の方向性>

- 幼稚園，小学校，中学校の教員が連携して，子どもの体力向上に向けた指導の研究を進める。
- 児童生徒の体力向上に向けて，授業や部活動に外部指導者を積極的に活用する。
- 体力運動能力調査を継続して実施し，8種目中3種目以上が，県又は国の平均以上となることを目指す。



親子で参加する新体力テスト測定会より